

『100円を貰うよりも、よく使うポイントや電子マネーを105ポイント貰える方がうれしいか』と問われたら、あなたならどのように回答するだろうか。『額面が5%大きい』のだから、後者のほうがよいに決まっている。でも、有効期限を過ぎて失効させてしまうかも。いや、すぐ消化すれば問題ないだろう。しかし、差が5円分だとどちらでもよい気がする。これが100万円と105万ポイントなら話は違うが……。』といった押し問答が頭の中を巡るに違いない。

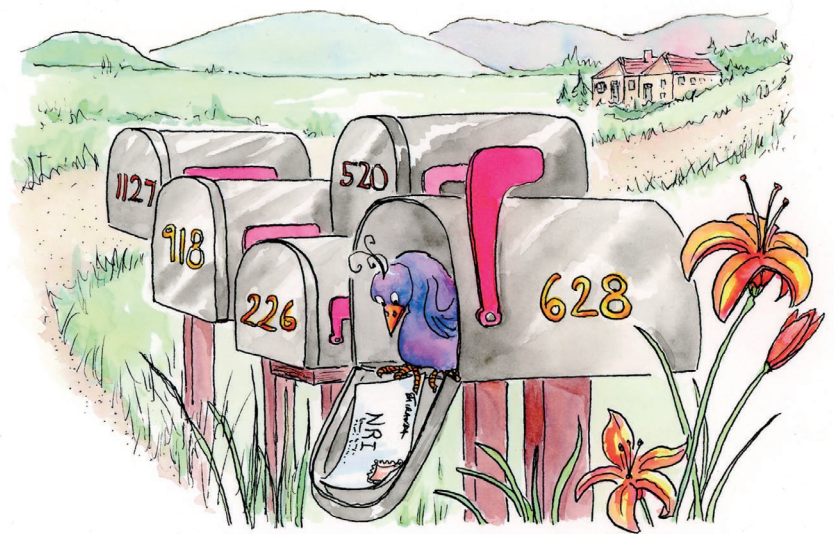
実はこれは、野村総合研究所が実施している「金融1

多少利回りが低くても購入したい』人は、資産運用経験者の約2割に上った。経済合理性からすれば、「リターン」や「パフォーマンス」が優先される。しかし、利回りを多少犠牲にしても、「投資を通して環境保護や社会貢献に寄与したい」と考える投資家がこれだけ存在するのが現実なのである。

同様に、『株主優待目当てで株式に投資している』人も資産運用経験者の約2割。株式投資で得られるリターンは「キャピタルゲイン」と「インカムゲイン」であり、優待目当ては、「邪道」ととらえられるかもしれない。し

数 | 理 | の | 窓

優待目当てで株式に投資してもよいですか？



万人アンケート」の設問の1つ。結果を見ると、「ポイントや電子マネーのほうがうれしい」人はほぼ半数となり、意見は二分した（あてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・あてはまらないの4択のうち、冒頭の2つを選んだ回答者の割合。他設問も同様）。

この他、『現金ではなくキャッシュレス払いだと、使わずにポイントがつかうかどうかで購入する商品・サービスが変わる』人が約6割、『価格が高くて、環境保護や社会貢献に役立つ商品を選びたい』人は約3割にも上り、様々な主観と思惑に左右されていることが伺われる。

では金融商品への投資についてはどうだろうか。例えば、『環境保護や社会貢献に役立つ投資商品であれば、

しかし、優待獲得を株式投資の意義とする投資家がこれだけ存在する。優待目当てであるが故に、高値掴みをしたり売却タイミングを逃したりと、本来のリターンを得るための判断を誤る場合があるかもしれないが、優待価値を金額換算してじたばたと売買せず、結果的にトータルで高いリターンを得る場合もあるのではないだろうか。

必ずしも合理的とは言えないものの、納得のいく投資を自由に実践できることに個人投資家は魅力を感じているのだろう。

さあ2024年1月、いよいよ「新しいNISA」のスタートである。様々な主観や思惑を秘めながらも、数多くの個人投資家が新規参入し、マーケットが活性化することを祈念したい。
(御竿 健太郎)